

平成25年度道徳教育研究協議会指導講評より

<指導のポイント（抜粋）>

【研究協議題：第1日】

「児童生徒の道徳的実践力を育成するために、授業者の発問の工夫や児童生徒の表現する機会の充実、他の教育活動との関連など、道徳の時間を要とした指導をどのように工夫改善したらよいか」

【授業を行う前に】

○道徳の時間について

- ・道徳の時間は、一段高められた道徳的価値に照らし合わせて、今までの自分を振り返り、道徳的価値について自覚を深めるとともに、自分の生き方を深く考える時間です。
- ・心を揺さぶる発問や、心に響く授業で、子供達に自己の生き方について深く考えさせる授業をすることが、教師の腕の見せ所です。

○学級経営について

- ・子供たちの心の居場所となる学級経営と信頼関係が基本です。
 - 子供が安心して発言できる教室ですか
 - ※答えが間違っている、嘲笑されない学級集団
 - 子供達に自己有用感や所属感はありますか
 - ※教師の温かいコメントのある子供の作品掲示
 - 主題に即した小道具が教室にありますか
 - ※道徳コーナー（心に残る言葉、写真、絵画）

○資料選択について

- ・ねらいとする価値項目にあった資料選びが授業の成否を決めます。
- ・選ぶ視点として次のようなことが考えられます。
 - 子供の内面を揺さぶる資料
 - 今までの知識や経験とのずれを感じる資料
 - 今までの意識や常識との矛盾を感じる資料
 - 人間としてのあり方や生き方を、どうすべきか葛藤する資料
 - 心に震える、心に残る資料

○子供のアンケートについて

- ・今回の指導案では、学校による子供の実態をしっかりと捉えられており、その実態を踏まえたねらいを明確にしていました。とても大切なことです。

【授業中】

○柱立てについて

- ・中学校A分科会の資料「心のパス交換」では次のような柱立ても考えられます。
 - 「何ができるというんだ」（P26）
 - 「何とかできるだろうか」（P28）
 - 「何かできるような気がする」（P28）

○発問について

- ・ねらいを踏まえて、発問構成、中心発問を明確し、補助発問も準備しておきます。
- ・子供を評論家にならないようにします。主人公の気持ちや心の変化を追体験させ、主人公の口を借りて子供の本音を引き出します。次のような発問例が考えられます。
 - <子供が評論家になってしまう発問> ○○・・・主人公
 - 「○○さんはどうすべきだったと思いますか」「それはどのような理由からですか」
 - <子供が本音を出しにくい発問>
 - 「あなたが○○さんだったら、どうしますか」
 - <主人公の口を借りて、子供の本音を引き出す発問>
 - 「○○さんはこの後、どのような気持ちになって、どのような行動をしたと思いますか」
- ・葛藤資料における発問の流れとして次のようなものが考えられます。
 - ①主人公の中に自分と同じ弱い部分を見いださせる発問

②思い悩む主人公の気持ちを追体験させ、共感させる発問

③心が覚醒する場面を丁寧に聞く発問（中心発問）

※知識としての価値を、自らの価値にさせていく切り返しが重要です。

「〇〇さんは、悪いと思ったから止めたというけれど、人の気持ちはそんなに簡単に変わるものかな？」

④今までの自分を振り返らせ、自らの課題を見いだせる発問

「そうか。この次からはこうしよう」と思わせる。

⑤これからの生き方に生かそうとする気持ちにさせ、余韻を残す。

○話し合いについて

・ねらいを踏まえて、あらかじめ子供たちに話し合わせたい内容を明確にすることが大切です。

【研究協議題：第2日】

「自校の道德教育の一層の充実を図るために、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道德教育推進教師としてどのような役割を担い、工夫改善すればよいか」

～道德推進教師としての役割～

○道德教育の指導計画に関すること

・校長の方針に基づいて、全体計画、年間指導計画を作成していくことが重要です。

・学校の子供の実態を踏まえて、どこに重点を置いていくのかを考え、年間指導計画を作成することが大切です。

・実施の見届けが大切です。学年会で報告をする等の工夫が考えられます。

○全教育活動における道德教育の推進、充実に関すること

・教務主任との連携を進め、全教育活動で道德教育の推進を図っていくことが大切です。

○道德の時間の充実と指導体制に関すること

・学校で統一したスタイルの確立は、指導方法の基礎・基本の確認と共通理解の上で進めるという点で意味のある取組です。

・道德開き（オリエンテーション）を共通理解し、同じような形で進めることも考えられます。

・教職員を対象の道德のアンケートは、実態を把握し、協力体制を確立する上で、効果的です。

○道德用教材の整備・充実・活用に関すること

・道德の時間に用いる教材や図書の準備・資料コーナー等の整備を進め、共有化を図っていきます。（みんなの目に触れ、使いやすい場所に保管）

・学級づくりの羅針盤、心のノートなどの国や県の資料の活用を進めることが大切です。

○道德教育の情報提供や情報交換に関すること

・道德に関する便りを分担して作成し、教職員の共通理解を図っていく取組は、教職員の道德に関する意識を向上させるとともに、協力体制を進めることができます。

・道德に関する喜ばしい話があった時、積極的に発信していくことも大切です。

○授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること

・学校公開日に道德の時間を公開し、家庭で話し合うきっかけをつくります。公開後、感想を記入してもらうことも考えられます。

・道德の時間で保護者等がゲストティーチャーとして参加することで、家庭、地域社会との連携が図れます。

○道德教育の研修の充実に関すること

・師範授業をみんなで参観し合うことが大切です。同時にいつでもお互いの授業が見合える雰囲気づくりをし、道德の時間のことが気軽に職員間で話題となることが理想的です。

・学校訪問（B訪問）を活用し、その前後で道德の時間の授業力向上を図ることも考えられます。

・小中の連携で、小学校、中学校のそれぞれの授業をT、Tで行うことで、それぞれの教員の研修となると同時に、授業を受けた子供にとっても効果があります。

○道德教育における評価に関すること

・学校評価の中で、子供からの評価、教師からの評価を分析し、内容項目のどの部分が弱いかを分析したり、教師自身が自分自身の指導を振り返ったり等の効果が考えられます。